

議会だより



肘折いでゆ館 マスコットの「ゆきもん」とスタッフ一同

もくじ

3月定例会	2~3P
予算審査特別委員会	4P
一般質問	5~10P
所管事務調査	11P
生産者の声	12P

第 99 号

3月定例議会開催される



3月定例議会が4日から7日までの会期で行われ、26年度の一般会計、特別会計の予算審査を行いました。
その他25年度補正予算7議案を含め、39議案を原案通り可決・同意。

補正予算

平成25年度一般会計及び特別会計

☆専決処分平成25年度大蔵村一般会計補正予算（第7号）

（単位：千円）

	補正額	総額	主な補正内容
一般会計	50,000	3,906,000	除排雪委託料の追加

☆平成25年度大蔵村一般会計補正予算（第8号）

- 〃 大蔵村国民健康保険特別会計（第4号）
- 〃 大蔵村簡易水道事業特別会計補正予算（第5号）
- 〃 大蔵村特定環境保全公共下水道事業特別会計補正予算（第3号）
- 〃 大蔵村介護保険特別会計補正予算（第2号）
- 〃 大蔵村浄化槽整備事業特別会計補正予算（第2号）
- 〃 大蔵村後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）

（単位：千円）

	補正額	総額	主な補正内容
一般会計	△3,000	3,903,000	業務委託料の減額及び沼の台橋橋梁補修工事の追加等
国保会計	1,005	496,649	保険給付費（療養費）の追加等
簡易水道	△16,100	172,594	水道布設費（工事請負費）の減額等
下水道	△763	146,294	下水道管理費（工事請負費）の減額
介護保険	25,487	349,890	保険給付費（介護サービス給付費）の追加等
浄化槽	△2,970	28,547	浄化槽整備事業費（工事請負費）の減額
後期高齢者医療	29	30,629	広域連合納付金（保険料等負担金）の追加

主な議事

条例の改正

- ☆大蔵村議会の議決すべき事件を定める条例の設定
- ・地方分権改革推進計画に基づく義務付けの廃止に伴い、市町村の基本構想に関する規定及び議会の議決の義務付けが削除されたため、議会の議決事件として定める
- ☆大蔵村地域防災センターの設置及び管理に関する条例の設定
- ・沼の台地区に新設した大蔵村地域防災センターについて、設置及び管理に関して定める
- ☆大蔵村へき地診療所の一部負担金、使用料及び手数料条例の設定
- ・診療報酬の改定に伴い診療所の一部負担金等について、明確化を図るために関係条例の全部改正をする

☆大蔵村職員定数条例の一部改正

- ・職員の定数について、現状に合わせた定数となるよう改正する

☆大蔵村職員の職務に専念する義務の特例に関する条例の一部改正

- ・大蔵小・中学校の教職員について、職務に専念する義務の免除の承認を与える者を明確にするために改正する

☆大蔵村長等の給与の特例に関する条例の一部改正

- ・村長が20パーセント、副村長が15パーセント、教育長が10パーセントの給料を減額するために改正する

☆大蔵村社会教育条例の一部改正

- ・社会教育法の改正に伴い社会教育委員の委嘱の基準を条例で定めるために改正する

☆大蔵村公民館設置及び管理条例の一部改正

- ・公民館使用料について消費税率の引上げに伴い改正する

☆大蔵村生涯学習施設の設置及び管理に関する条例の一部改正

- ・大坪生涯学習センターの用途廃止や沼の台生涯学習センターの一部取壊し及び消費税率の引上げに伴い改正する

☆大蔵村保育所設置条例の一部改正

- ・沼の台保育所が移転新築したことに伴い、設置所在地を改正する

☆大蔵村道路占用料徴収条例の一部改正

- ・消費税率の引上げに伴い占用料の改定と国有林野事業の一般会計化により国の事業は全て占有料を徴収できなくなったために改正する

☆大蔵村特定環境保全公共下水道条例の一部改正

- ・消費税率の引上げに伴う下水道使用料の改定

☆財産の無償譲渡について

- ・大坪生涯学習センターとしての利用を廃止し、建物を大坪地区公民館として再利用を図るため無償譲渡する

☆財産の無償貸付について

- ・大坪生涯学習センターを大坪地区公民館として再利用を図るため、その敷地を無償貸し付けする



旧大坪生涯学習センター

人事案件

固定資産評価

審査委員会委員

新任 中島 信一氏

再任 国分 亨氏

(沼の台) (通り)

平成26年4月1日から消費税率の引上げに伴う料金等の改定

☆大蔵村体育施設の設置及び管理に関する条例の一部改正

☆ふるさと味来館の設置及び管理に関する条例の一部改正

☆大蔵村浄化槽整備に関する条例の一部改正

☆大蔵村簡易水道給水条例の一部改正

☆大蔵村飲料水供給施設設置条例の一部改正



加藤 忠己 議員

消費税の引き上げにどう対応

村長 増税分を施設使用料に転嫁

問1 4月より、消費税が8パーセントに引き上げとなる。増税は村民生活への影響が懸念される。村として消費税増税にどう対応し、どのように転嫁することとしたのか。

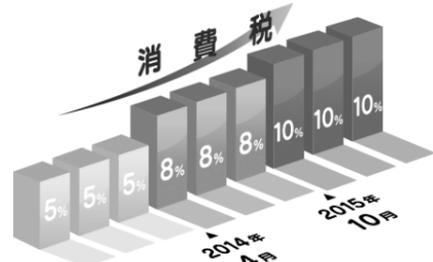
答1 4月からの増税分を施設の使用料に転嫁することにし、本定例会に条例の一部改正案を提案している。

問2 指定管理者制度を導入している村の施設ではどのように対応するのか。

答2 現在改定するとの話は聞いていないが、各施設との整合性や国の特別措置法との関係を精査しながら検討するように指示している。

問3 10%に引き上げられた場合も含めて、消費税の増税が村民の生活にどのような影響があると考えているのか。

答3 消費税は、所得水準が低い地方に暮らす者にとっては、生活の質を落とすことになりかねないことから、あらゆる機会を捉え格差是正の対策を講じるよう国に対して要請していく。また、村内の各業種において経済活動を活性化させることにより、個々の所得が増加し、増税対策に成り得ると考える。大蔵村が活性化できる政策を打ち出していく。



税外負担の考え方は 村長 十分配慮するよう 申し入れ

問 本来、村で負担すべきと思われる協議会等の各種団体、会費や募金の名称のもと住民に負担を求めている。地区においては集金の取りまとめを依頼されており、割り当て金額となっており、多い場合が多く半強制的と捉えるものも多い。団体それぞれの趣旨は十分に理解しているが、消費税の増税に伴い負担が大きくなる。今後の税外負担のあり方は。

答 村社会福祉協議会、村民会議、体育協会の三団体については会費として運営費等をいただいている。その他に、全国的な団体、全県を対象とした団体からの募金依頼等がある。これら団体は、多くの方々のご協力により運営していることから、その会の運営は経費の節減に努め、負担を少なくすることがより強く求められる。そうした点については、十分に配慮するよう各種団体に申し入れしていく。

同時に、村のみの組織である三団体については、皆様から頂いたご寄付の用途について明確に示すよう指導していく。

※税外負担のとは・・・本来、村で負担すべきと思われる色々な会費や団体の寄付金など

平成26年度当初予算 47億5,300万円

一般会計 33億8,000万円
特別会計 13億7,300万円

国民健康保険特別会計	4億7,100万円
簡易水道事業特別会計	1億3,700万円
特定環境保全公共下水道事業特別会計	1億5,500万円
へき地診療所特別会計	2億2,000万円
介護保険特別会計	3億2,500万円
浄化槽整備事業特別会計	3,200万円
後期高齢者医療特別会計	3,300万円

予算審査特別委員会

委員長 海藤 邦夫
副委員長 長南 正一

一般会計

問 地方消費税交付金が昨年より2百万円を減額しているが何故か。

答 村の人口減少により県民税の調定額も減ったため減額となった。

問 ふるさと納税謝礼品の増額の理由は。

答 納税していただいた方への謝礼品を見直し選択できるようにする。

問 ホームページ制作業務委託料の増額の内容は。

答 村のホームページを要望に応じて見直しを図るための増額である。

問 村の海外研修事業における計画案は。

答 今年度は高校生や大学生等の若い世代の参加を検討中である。

問 大蔵村戦略的園芸産地拡大支援事業費補助金の活用見込みは。

答 今年度新規支援としてトマト園芸ハウスに3農家1法人・タラの芽の施設整備に3農家の規模拡大がある。

一般会計

問 うご山畜場管理運営負担金が通常年度より多いが、特別な事業があるのか。

答 通常工事の他に、今年度は新規に外気を防ぐために風除扉・風除室の工事がある。

問 全国棚田連絡協議会会費の内容と大蔵村の方針は。

答 26年度から予算を付けた。連絡協議会へ加入した大切な地域資産を活かした地元の収入確保に取り組みたい。

問 第6次産業化立ち上げ構想がある中で、それに伴う助成金や補助金が少ないのではないかと。

答 25年度に6次産業ネットワークを立ち上げた。今後どのような助成が必要なのかを改めて検討し予算措置をしたい。

問 自主防災組織設立支援事業補助金とは。

答 自主防災組織への補助

特別会計

金は備品等の整備が図られるよう、1集落40万円を限度に補助する。

問 診療収入が大幅に減少している理由は。

答 26年度から院外処方になるため、薬剤処方の収入が無くなるのが理由である。

問 寝たきり老人等介護手当扶助費が4万円になったが、給付になる方は。

答 要介護4か5の認定者と認知症ランク3以上の認定者に支給し、軽度の方への支給はない。

問 浄化槽設置計画数に満たない場合は国や県の補助は受けられないと聞かすが、この場合は村がすべて補助するのか。

答 5年間を通して概ね10基ずつ設置することが補助の対象となる。しかし村ではそれに満たない場合でも90%村負担で事業を継続する。



長南 正一 議員

今後の人口変動と財政について

村長 事業の取捨選択と 行財政改革の推進

問1 少子高齢化現象に歯止めがかからず、国全体の人口も減少の一途をたどっている。

1月30日総務省が発表した2013年の人口移動報告によると、山形県は4081人の転出超過となっており、本村でも平成25年12月末現在で昨年同期より戸数で24戸、人口では131人の大幅減少で、深刻な状況が続いている。

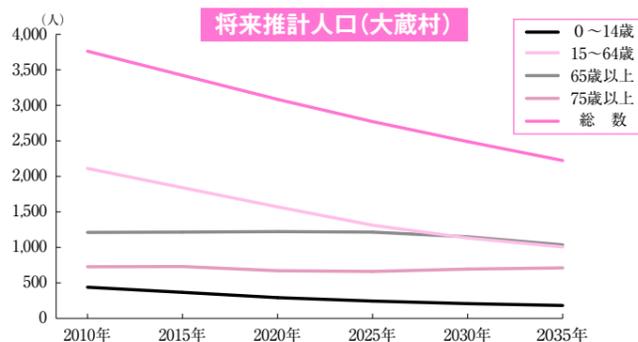
一方、村の財政に大きなウエイトを占める地方交付税の積算にも大きな影響を及ぼす人口動態を、今後どのように想定しているか。そして、予測される人口減少の影響をあらゆる角度から分析し、資料として提示し、村民等しく危機感を共有しながら、その対応策に村民全員の力と知恵を集約すべきと思う。

新年度に向けた考えは。

答1 村の将来的な人口想定は、非常に難しい問題である。昨年3月に国立社会保障・人口問題研究所で平成22年国勢調査の人口をもとに推計した数値では、平成47年の大蔵村の人口は2223人となる。現在、この推計値が最も現実に近いと評価し、村としてもこの数値で推移するものと考えている。

無謀とは思いますが、その人口をもとに地方交付税を推計してみると、12億から13億円の地方交付税になると考えられ、今後、事業の取捨選択とともに行財政改革を進めていかなければならないと考える。

また、人口減少に伴う影響などを村民にも示し、危機感を共有し地域



参考資料：国立社会保障・人口問題研究所(平成25(2013)年3月推計)

独自の活性化策を地域住民が主体となって策定する必要性が高まっていると考える。今後、座談会等を通じて村民の方々と意見交換を行い、ご要望などをお聞きしながら、少しでも人口減少に歯止めがかかるような施策を展開していく。

問2 人口減少の波を直視し、特に中山間地域における集落維持の危機感に対し、果敢に挑戦する気概で行政政策に意を配してほしい。

答2 わかりやすく事業の内容等を示し、村民の力を結集して乗り切っていきたい。
しかし、すべてにおいて行政に頼るのではなく、地域コミュニティとしての考えをまとめていただきたい。こうしたことで、地域住民が真に望む施策を展開し、地域づくりにつながるよう配慮する。
また、国・県が提案する過疎化に対する施策を果敢に活用したい。



中島 幸夫 議員

森林活用について

村長 エネルギーの地産地消による 産業の振興を



問1 昭和40年ごろまで木炭や薪として、木質バイオマスを暖房や調理などに利用していたが、高度経済成長やエネルギー革命により高カロリー石油やガスなど化石燃料を使うようになった。

しかし、CO₂の放出により地球温暖化という悪循環を生み、重大な問題となっている。化石燃料を木質バイオマスだけで補うことはできないが、少しでも本村の豊富な森林資源を活用しCO₂の排出量を削減しながら地域の環境ビジネス産業、

地域活性化に地産地消のエネルギーとして、新しい好循環型再生可能な資源で貢献できるか。

近年、地球温暖化対策として、木質エネルギー活用を国策として、また、県の施策として取組んでいる。今こそ、本村の豊富な森林資源を活用すべきと思う。

答1 東日本大震災以降安全で安定した再生可能エネルギーに対する期待が高まり、また化石燃料の高騰や災害時の電力・熱の確保といった課題に対応するため、地域資源を活用した再生可能エネルギーの導入によるエネルギーの地産地消が求められている。

大蔵村には総面積の85%を占める豊富な森林資源を有しており、森林の活用を推進するための木質ストーブ

(まき・ペレット・チップ)導入に対する助成を考えている。
今後、森林の整備と木質バイオマスなどの森林資源を有効に活用する仕組みを創出して産業振興に繋げていきたい。

問2 木質ストーブの設置は高額となり、なかなか一般家庭では普及が進まない状況にある。早急に村独自の補助を行うべきではないか。

答2 県の補助金に上乗せすることで、補正予算で考えていきたい。
村が指導性を持って木質バイオマス活用促進について周知徹底を図っていく。

問3 木質ストーブの普及に付随する木材産業等の活性化推進を行うことが、雇用促進にも繋がるのではないか。

答3 村主体ではできないため、民間が取組めるように積極的に情報の開示、提供をしていきたい。



飯豊町木質バイオマス製造施設



佐藤 勝 議員

高齢化が進む村の介護はどうなる

村長 地域包括支援センターを中心に

問1 大蔵村に限ったことではないが、人口の減少や高齢化が急速に進む中、要介護者とそれに準ずる高齢者が非常に多くなっている。現在、施設での介護や在宅介護の両面から支援や対応をしているが、この現状を見る限り満足とはいえない。

特に在宅介護においては、今、介護をしている人が、明日は自分が介護されるような年齢になっている。

今後、益々増大することが予測される。こうした介護者への対応に危機感を持って予防策を早急に取り組むべきと思う。



認知症予防教室

答1 若い世代から健康に対して気をくばり、元気な高齢者になること。また要介護状態になった場合でも、自身が持っている能力の維持向上を図ることが最重要と考え、地域包括支援センターを中心として、身体機能維持のための運動教室や訪問・相談活動の充実を図りたい。

答2 施設の増築等については、広域的な調整も必要であり村独自（単独）ではできない現状にある。さらに、施設の増加がこうした問題の根本的な解決にはならないであろうと考えている。

国では、介護保険制度の大幅な見直しが見込まれている。村としても情報をいち早く収集し、今後も村民みなさんが満足でき、安心して生活できるサービスの提供に努めていく。



問3 高齢者に孤独感を与えず、少しでも希望や楽しみが持てるような施策を講ずることが最良の介護、予防になるのではないかと。

答3 健康のつどいははじめとする事業等が、効果のある、価値観を持った啓発活動となるよう、官民一体となって予防策に磨きをかけていきたい。



矢口 智 議員

近くて遠い？工業団地

村長 優良企業の周知と最上圏域一丸で



新庄中核工業団地

問 大蔵村から新庄中核工業団地への道路が開通し、新庄市や高速道路へのアクセスが向上したが、最も便利になったのは中核工業団地へ勤務する方々である。2000人が勤務していると言われ、職種も30数種に及び多岐にわたっているこの団地に、人口比率で考えても100人を超す村民が働いているはずだ。この工業団地、袋小路から解消されたら、企業進出も活発になってきたような気がする。

空地が少なくなってきた。しかし、「最上には仕事が無い」という固定観念に縛られたような、職に関する近年の風潮があり、よく調べもしないで敬遠されてはいないかと感じる。企業の中身を知らないままでイメージが悪くしては、若者離れが加速するばかりだ。身近になった工業団地の、職種や業務内容を村民に周知することをはじめ村が橋渡しを図り、積極的な支援をすることで、雇用環境が大きく変わる可能性はあるし、企業に優秀な人材も増え、好循環となる。農業も重要だが、こちらの分野も大事だ。

工業団地の南側玄関に一番近い村長の、工業系の職種に関する支援の考えを聞きたい。

答 新庄中核工業団地は、平成23年8月に大坪から工業団地までのアクセス道路が開通したことで通勤者の交通の利便性が向上し、村民の雇用の確保に大きな役割を果たしている。第1に、「最上には仕事が無い」という固定観念に縛られていないか」との意見だが、私もその意見に同意見であり、工業団地の中には世界に進出している企業や環境に配慮したトップ企業などがあり、もっと村民の理解を深めるための施策を検討していく。



工業団地・南側玄関口

第2に、団地の南側玄関の一番近い村長として、工業系の業種の企業誘致の支援というご質問ですが、企業誘致は大変厳しい状況にある。また、各市町村が個別に対応することには限界があるので、最上圏域一丸となって対応していきたい。



海藤 邦夫 議員

宅地分譲の計画着工を 村長 適正規模で低価格の分譲地

問1 子育て支援住宅が完成して2年になるが、更なる定住促進・子育て支援に向けた取り組みに期待を寄せている。

しかし、子育て支援住宅の入居家族が、いずれ小学校を卒業すれば退去しなければならぬ。はたして入居期限後村に住み続ける環境が整備されているのか。子育て支援住宅入居期限後、村に定住したいと考えている方々に対して、村内に宅地や分譲地等を購入できる情報や支援が少なく、住居を構えることが困難と思う。入居者が、今後も安心して将来設計ができる支援が必要ではないか。

答1 「どんぐり」は他の住宅と異なり、子育てを支援する目的から条例で「入居期限」を定めております。現在の入居者で許可期限が最短な世帯で平成36年3月31日、これから10年以上は全ての世帯がそのまま入居可能です。

「子育て支援住宅を退去した後の住まいを、どのように考えているか」とのアンケートに土地を購入して新築したいが3世帯ありました。また、村中心部へ転居希望もあるかもしれないので、適正規模で低価格の分譲地を検討している。

問2 村内居住者の中にも村中心部の子育て環境やライフラインの整う圏内に新たな居住地と考える方もいると思う。村に愛着を持ち住み続けたいと願う方々の受け皿として、分譲団地造成が必要と思われる。

答2 分譲地として、大坪福田工業団地線沿線や国道458号沿線の清水・合海を中心に検討している。

また、定住促進を進め、人口減少緩和に繋がればと考えている。



子育て支援住宅「どんぐり」

所管事務調査報告

産業建設常任委員会

今年は降雪の少ない日が続いていたが大雪も予想されることから1月22日、議員全員による冬期間の村内道路状況調査を実施した。

調査当日は、天候にも恵まれ村内を隈なく巡回してきたが、地域住民の生活に重くのしかかる現状に冬の厳しさを痛感したところでもあります。

このような中、村道は除雪が行き届いており通勤通学や日常生活に支障をきたすような危険箇所は見受けられませんでした。

冬期間の除雪計画は、約60・4kmを計画路線として、除雪機13台をもって冬期交通の確保に努めているが、全国的にも名だたる豪雪地である本村では、除雪に携わる方々の昼夜を問わず頑張り、地域住民の協力が最も大切であると考えている。

今後とも住民生活安定のため、除雪体制の充実強化を希望する。



総務文教常任委員会

2月21日に大蔵小・中学校及び翠明荘を訪問し運営状況などの所管事務調査を実施した。

学校の運営状況は1小学校・1中学校として地域との連携を深められ小中連携教育の推進も児童生徒の実態や指導の方針・具体策等の情報交換が図られていた。



昨年7月の豪雨により甚大な被害が発生し、学校生活にも多大な影響を与える事態となった。通行止めによる帰宅困難に親戚や赤松まつぼっくり利用など適切に対応され、きめ細かなサポート体制が教育環境の運営に適切したものだと安心している。

翠明荘では個々のケアプランに基づき、自立した生活を営むことができるよう支援しており、また、独自のグループケアを展開し、より快適で安心して生活できるような介護サービスを受けられるものと感じた。

今後とも、特色を活かした協働による、効果的な実践活動の積み重ねと併せ、地域との相互関係の継続と推進を強く望む。

議会運営委員会

公共事業の早期促進を図るため、2月5日本県選出国会議員5名と国土交通省道路局を訪問し、一般国道458号の整備促進、主要地方道戸沢大蔵線の整備促進、東北中央自動車道建設促進、県営ため池等整備事業赤松3期地区整備促進と併せ、今後大雪等も予想されるため、村道や家屋の除排雪状況など雪対策支援についても要望してきた。

その後、議会運営の取組みを研修するため国会議事堂において、参議院予算委員会を傍聴してきた。「特定秘密保護法が施行されてどうなるか毎年再考」の質問や、「中学・高校向け学習指導要領の解説に、尖閣諸島と竹島を明記する改定」等の議論を傍聴した。

いずれも質問と答弁が簡潔明瞭に議論されており、1時間ほどの時間ではありましたが大変参考となる研修をさせていただいた。

この経験を活かしながら本議会においても、より円滑な議事運営をもって適正且つ妥当な議決が得られるよう、なお一層の努力をしていきます。



肘折いでゆ館 八鞆 晃 支配人に聞きました。

Q オープンしてから何年？

A 平成9年9月に開業しました。早いもので、もう17年になります。

Q 肘折希望（のぞみ）大橋がよく見えますね。

A 大きな災害を乗り越えて素晴らしい橋が完成しました。いでゆ館から見上げるとすごい迫力です。夜景もきれいですよ。

Q お土産や食事メニューが充実してきましたね。

A 好評の「肘折カルデラサイダー」をはじめ、大蔵産トマトを使った「アイス」や「ソフトクリーム」などの「実もち」も美味しいですよ。

食堂ではのぞみ大橋の開通記念「特製肘折希望フーメン」をぜひご賞味ください。

Q 販売コーナーが変わりましたね。

A 大蔵の特産品コーナーを設けて、「おおくらほんもろ娘」や、ままちゃん工房の「そばクッキーおおくら君」などを紹介・販売しています。

大蔵特産品情報発信中！

日帰り入浴はもちろん、特産品の紹介や村の観光の案内窓口として、中身の濃い運営を心がけています。のぞみ大橋を見ながら、ぜひお立ち寄りください。



サイダーとトマトアイス。ご賞味あれ。

主要地方道戸沢・大蔵線肘折地内道路

復旧調査

特別検討委員会報告

主要地方道戸沢・大蔵線肘折地内道路復旧調査特別検討委員会は、平成24年6月の議員全員協議会において設置し、住民生活の安全に万全を期すための対策を重ねてきた。

この特別検討委員会は、道路復旧（「肘折希望大橋」の完成）をもって解散した。

今後は、主要地方道戸沢大蔵線が唯一の迂回路として、早急な拡幅整備はもちろんですが、以前から計画のあった整備が中断となっている肘折トンネルから先の整備促進について、要望活動の展開を図っていく努力をしていきたいと考えている。

村議会議員研修会

2月26日、北海道町村議会議長会勢旗事務局長より「未完の地方分権と議会運営の諸課題」という演題で、本会議での一般質問のやりかたや委員会のあり方を学びました。



編集後記

卒業／入学。厳しい冬／春。人も自然も大きく変わるこの時期、何かしらわくわく感があって、とつても好きな季節です。雪の中に埋めていた白菜がまだ食べられる。美味い。その脇に埋めていた夏菜の根っこが行方不明。保存食とのお付き合いいももう少しですね。雪が消えて新しい息吹を感じる季節までもう少し。春の香りを一番楽しめるのはフキノトウかな。若い頃は感じなかった肉体疲労の蓄積、やはり温泉が一番効果的。いでゆ、カルデラご利用あれ。心身ともにリフレッシュして春作業を迎えましょう。

広報委員

矢口智 記

